

## 最優秀賞

t v k かながわ M I R A I 賞

### 私のおばあちゃん

秦野市立西小学校

五年 福田 風 菜

私のおばあちゃんは、にん知しようです。私やお兄ちゃん達が保育園に通っていた時は、いつも保育園に送りむかえをしてくれました。私は、そんなやさしいおばあちゃんが大好きです。

私が小学生になってから、おばあちゃんにはにん知しよくなりました。にん知しよいはいろいろな事を忘れてしまう病気です。そして、治ることはありません。おばあちゃんににん知しよになつてから、前のおばあちゃんではなくなりました。

今年の六月に、おばあちゃんが私の家に来ました。最初は、お母さんが一人でおばあちゃんのかいごをしていました。お母さんが大変そうで、私もいっしょに手伝いました。時どき、

私のことを忘れてしまいます。食べ物やトイレもわからなくなります。夜もねないで、ベッドのさくを叩いたり、さくに足をかけたりしていることもありました。

にん知しようにって何なんだろう。どうして、大好きなおばあちゃんを変えてしまうのだろうと、悲しくなりました。大好きだけど、家でいっしょにすごすのは大変でした。ずっといっしょにいたいけど、かん単なことではないのだと思いました。だから、まわりの力や助けが必要です。お母さんは泣いていました。そんな泣いているお母さんの気持ちがわかっていき、私もいっしょに泣きました。

今はしせつに入り、落ち着いて生活をしています。私は福祉のことについて知りました。困っている私達を助けてくれたり、私達の辛い気持ちによりそってくれました。

これから、高れい者もつと増えていく時代が来ます。私も福祉に関わる仕事をしたい、困っている人達の力になりたいと思いました。そして、色んなことを教えてくれたおばあちゃん、今でも大好きです。